

英語



より高いレベルの生徒を対象とした
『特進Sクラス』

併設の幼稚園や小学校でも英語教育に力を入れており、コミュニケーションを中心としたハイレベルな学習が展開されています。そのため、同校では特進クラスの英語科に『特進Sクラス』を設置し、内部入学生・外部入学生を問わず、成績が優秀な生徒はさらに高度な英語の授業をめざします。習熟度に見合った授業を受けることで、無理なく高度な英語を習得していけるのです。

ネイティブの先生によるIT機器を活用した英語の授業の様子。

入試日程

2015年度から新しく始まる『特進クラス』の選抜入試は、1月23日に4科目で実施され、第1・2回入試の合格者は、無料でチャレンジできます。ほかの試験と異なり、難易度の高い問題が出題されます。

第1回(推薦)入試

12月1日 2科目または4科目、面接あり

第2回(一般)入試

1月20日 2科目または4科目

第3回(特待・特進)入試

1月23日 4科目

第4回(一般)入試

2月5日 2科目または4科目



数学

先取り学習の成果が難関大学合格に結びつく



「先取り学習を進めたことで、ここ数年、東京工業大学、東京学芸大学、千葉大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京理科大学など難関大学や理系学部への合格が目立つようになりました」と西谷先生は言います。『特進クラス』も他のクラスと同様、高校2年から文系・理系に分かれますが、より少人数で授業が進められるため、生徒達の理解度が深まります。

英語と数学を柱に
難関大学合格をめざす
特進クラスが誕生

昭和学院

この学校の
情報は
「S-pot」へ



中

学1年次からノートの取り方など学習の方法やその姿勢を細かく指導する同校。今までは、中学3年から成績優秀者による『特進クラス』を設置し、国公立や早慶上理などの難関大学への合格者を輩出してきました。来年度からは、中学1年次から特進クラスを設置し、6力年一貫による指導を通して、さらなる大学合格実績の向上をめざします。

同校が、その柱としてとらえているのが、英語と数学です。中高一貫校向けの教科書を使い、先取り学習を進めます。英語ではCALL教室の活用や、外国人講師との英会話授業で、リスニングや表現する力を強化し、中学3年では英検準2級取得をめざします。

「小学校での外国語活動を通じ、生徒は英語を聴くことには慣れていきます。中1段階では、フォニックスを取り入れ、発音と綴りの関係をしっかりと習得させて、単語や英文を読んだり書いたりできるようにしていきます。また、進学面では、問題を解く力が欠かせませんが、これに加えて、自分のことを英語で発信する力を育てていきたいと考えています」と、英語科の西村由起枝先生は抱負を語ります。

一方、数学科の西谷史子先生はこう話します。

「数学に力を入れるのは、人気の高い理系学部への進学や、国立大学志望者へのセンター試験対策のためです。得点差がつかややすい科目なので、覚えるだけでなく深く考える力もつけていきます。最近の入試の多様化により、文系でも数学で受験できる学部、学科が増えていますのでその対策もしています」

特進クラスでは、先取り学習により、高校3年の1学期には教科書の内容を終わらせ、2学期からは大学受験の準備に入ります。生徒達が効率よく先取り学習を進めていけるよう、中高の類似する単元・学習内容を合わせて学ぶカリキュラムを組んでいるのも特色のひとつです。

その一方で、同校がこれまで培ってきたいねいな人間教育は揺るぎない柱だと教務副部長の園家誠二先生は言います。「特進クラスは、難易度の高い授業を受けますが、部活動や学校行事などは一般クラスと一緒にに行います。一人ひとりの生徒が持つ夢や目標を互いに尊重し、切磋琢磨し合いながら、強くてやさしい人、どんな状況でも正しい判断ができる人材を育てていきたいと考えています」